

製品名: アンドロゲン受容体ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86746**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	Calculated MW:99 kDa; Observed MW:110 kDa

抗原情報

遺伝子名	Androgen Receptor
別名	KD; AIS; AR8; TFM; DHTR; SBMA; HYSY1; NR3C4; SMAX1; HUMARA
遺伝子 ID	367
SwissProt ID	P10275
免疫原	ヒトアンドロゲン受容体の合成ペプチド

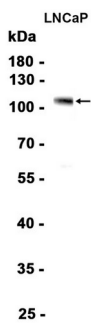
背景

アンドロゲン受容体遺伝子は 90 kb を超える長さで、N 末端ドメイン、DNA 結合ドメイン、およびアンドロゲン結合ドメインという

3つの主要な機能ドメインを持つタンパク質をコードしています。このタンパク質は、ステロイドホルモン活性化転写因子として機能します。ホルモンリガンドと結合すると、受容体は補助タンパク質から解離し、核に移行して二量体を形成し、アンドロゲン応答遺伝子の転写を刺激します。この遺伝子には、タンパク質の N 末端転写活性化ドメインにポリグルタミン領域とポリグリシン領域をコードする2つの多型性トリヌクレオチド反復配列が含まれています。ポリグルタミン領域が正常な 9~34 反復から病的な 38~62 反復へと拡大すると、球脊髄性筋萎縮症 (SBMA、ケネディ病としても知られています) を引き起こします。この遺伝子の変異は、完全アンドロゲン不応症 (CAIS) とも関連しています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物変異体が生じる。[RefSeq 提供、2017年1月]

研究分野

画像データ



アンドロゲン受容体ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した LNCaP 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。